

教育センター

センター長 福島 統

教授：福島 統 医学教育学
教授：尾上 尚志 医学教育学
教授：中村真理子 医学教育学
講師：岡崎 史子 医学教育学

教育・研究概要

平成 11 年 4 月に教学委員長を室長に医学教育研究室が学事部学務課内に設置され、平成 14 年 4 月には初年次教育の拡充のために、国領校に医学教育研究室国領分室が設置された。平成 17 年 10 月に教育センターが設置され、その中に医学教育研究室、看護教育研究室、卒後教育支援室、教育開発室が置かれ、平成 18 年 4 月には教育センター事務室が設置され、教育センターとして本格的な活動が開始された。福島 統が平成 19 年 4 月に教育センター長に就任し、平成 22 年 4 月、平成 25 年 4 月に再任された。教育センターは、平成 22 年 4 月に C 棟 7 階に移動し、シミュレーション教育施設および e-Learning 施設の管理運営も行っている。平成 27 年 8 月 1 日に東京慈恵会医科大学教育センター規程が改定され、教育センター内に医師キャリアサポート部門（部門長：福島 統）、看護キャリアサポート部門（部門長：奈良京子）、シミュレーション教育部門（部門長：尾上尚志）、地域医療支援部門（部門長：松島雅人）、教育 IR 部門（部門長：中村真理子）、アドミッション部門（部門長：木村直史）が設置された。医師キャリアサポート部門には、医学教育研究室（室長：木村直史）と教育開発室（室長：福島 統）がある。

1. 平成 24 年度文部科学省「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成(B) グローバルな医学教育認証に対応した診療参加型臨床実習の充実」事業で「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」（事業責任者：宇都宮典教授）を行っている。岡崎講師と尾上教授は平成 27 年度から開始される臨床実習カリキュラムの準備及び実施に当たった。

2. 平成 24 年度文部科学省「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成(C) 医学・歯学教育認証制度等の実施」事業で「国

際基準に対応した医学教育認証制度の確立」（申請大学：東京医科歯科大学）を連携校として活動している。本取組の中で、中村教授が英国キングス大学医学部での調査を行った。この調査では、入学試験での質保証の取り組みの調査も行い、キングス大学医学部で実施されている Multiple Mini-Interview (MMI) の現場視察も行った。平成 25 年度から第三者評価のトライアルが開始されている。福島センター長と中村教授が第三者評価トライアルに参加している。平成 27 年度は、福島センター長は、筑波大学医学専門学群と奈良県立医科大学の第三者評価の主査、岐阜大学医学部で副査、横浜市立大学医学部では外部評価者を務めた。中村教授は評価者として、横浜市立大学医学部、富山大学医学部、岐阜大学医学部でのトライアルに外部評価者として参加した。中村教授は本学の教育 IR 部門の部門長として活動し、医学部における IR 活動の調査研究を行った。

3. 平成 25 年度文部科学省研究拠点形成費等補助金「先進的医療イノベーション人材養成」事業で「卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発」（事業推進責任者：大野岩男教授）が採択された。本取組の一つとして、3 年次「高齢者医療体験実習」が 3 月に実施された。この新設学外実習での実習先確保に当たっては、厚生労働省医政局医事課長と老健局老人保険課介護データ分析室長からの支援を受けた。国が求める医学教育へのニーズをカリキュラムに生かす方策として、行政との協働というカリキュラム開発の方法論を確立した。

4. 看護キャリアサポートセンターは、奈良京子部門長を担当として、1) エデュケーションナース研修、2) 看護監督者研修、3) 看護管理者研修などの看護学教育プログラムを実施した。

5. 医学教育振興財団主催「医学教育指導者フォーラム」と文部科学省主催「医学・歯学教育指導者ワークショップ」を支援した。フォーラムでは、卒後臨床研修を主題とし、英国での卒後臨床研修 (Foundation Programme) の実際と、卒前教育と卒後研修との接続性についての講演を組んだ。英国での基礎研究者養成の取り組みとしての卒後臨床研修プロ

グラム, Academic Foundation Programme についても紹介した。文部科学省主催のワークショップでは, 1) 医師・歯科医師として求められる基本的資質, 2) 卒地域包括ケアシステム, 3) モデル・コア・カリキュラムをもとにした具体的な教育の方法, 4) 卒後の多様な医療ニーズ・多様なキャリアパスを見据えた教育の在り方, 5) 教養教育や準備教育の在り方, 6) 今日の社会状況を踏まえてモデル・コア・カリキュラムに新たに盛り込むべき事項, 7) 臨床実習の実習に関する諸課題をテーマに取り上げ, 福島センター長がグループワークの趣旨説明を行った。

6. 平成 27 年度文部科学省「大学における医療人の在り方に関する調査研究委託事業」に福島センター長が調査研究協力者として参加した。

7. 福島センター長は, 文部科学省モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門委員会の委員としてモデル・コア・カリキュラムの改定作業の準備に加わった。

8. 平成 27 年度文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」に福島センター長が参加した。医学教育の質保証の活動を, 専門学校の質保証に活かす活動で, 今年度はこの事業でモデル事業委員会委員長として活動した。

9. 福島センター長は東京都地域医療対策協議会の委員として, 東京都福祉保健局の活動に参加した。

10. 学外での医学教育関係講演: 1) 岐阜大学, 2) 東京医科歯科大学, 3) IMS 医療安全管理者講習会, 4) 東洋医療専門学校, 5) 大阪医科大学, 6) 岩手医科大学, 7) 九州歯科大学, 8) 兵庫医科大学, 9) 兵庫医科大学病院, 10) 厚生労働大臣指定理学療法士・作業療法士・言語療法士養成施設等教員講習会, 11) 厚生労働大臣指定柔道整復師養成施設等専科教員講習会, 12) YMCA 米子医療福祉専門学校, 13) 大東北文化学園大学, 14) 都立南多摩看護専門学校, 15) 東邦大学大学院医学研究科博士課程, 16) 駿台予備校, 17) 大東文化大学法科大学院 (以上, 福島センター長), 18) 札幌医科大学, 19) 北海道薬科大学, 20) 熊本大学医学部 (以上, 中村教授)。

「点検・評価」

教育センターでは, 1. 医学教育・臨床研修支援, 2. 看護キャリアサポートセンター業務, 3. シミュレーション教育施設運営管理, 4. e-Learning の設備管理と運営, 5. 教育 IR 活動, そして, 6.

競争的教育補助金の獲得を中心に活動を行っている。研究もこの活動に沿った内容で行っている。シミュレーション教育施設はその使用頻度が年々増加し, さらに使用機材は高機能になってきている。教育センターの役割が拡大しつつある。昨年度発足した教育 IR 部門が継続的に活動するためには, データ収集などの実作業を担う事務職員が必要となっている。教育センター業務は研究よりも教育実践と内部質保証に重きを置いている。これらの業務は教職協働で行うものであり, 今後, 教育センターの事務組織の実質化が求められる。

教育センターの活動は学内のものと学外のものに区分される。学内の活動は教学委員会及びその下部組織の委員会の支援活動で, 教学委員会の依頼のもので行われている。今年度は臨床実習改善の準備とその実施が主なものであった。一方, 学外の活動は広がってきており, 文部科学省, 厚生労働省, 東京都の行政からのものと, 全国医学部長病院長会議, 医学教育振興財団, 医学教育評価機構, 医学教育学会などの学協会のものがある。学外活動は本学が今まで行ってきたカリキュラム改革の実績を評価されたものと理解している。今後も, 学内だけでなく, 学外の活動にも力を注いで行く必要がある。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Murakami M¹⁾, Fukuma S¹⁾, Ikezoe M (Saku Ctr Hosp), Nakamura M, Yamamoto Y¹⁾, Yamazaki S¹⁾ (¹Kyoto Univ), Fukuhara S (Fukushima Med Univ). Effect of an educational program on attitudes towards deceased organ donation. Ann Transplantat 2015; 20: 269-78.

III. 学会発表

- 1) 福島 統. (教育特別講演) これからの医療者教育の方向性. 歯科基礎医学会第 1 回定期特別講演会. 東京, 4 月.
- 2) 福島 統. (シンポジウム 8: コミュニケーション教育担当者の育成に向けて) 卒前医学教育におけるコミュニケーション教育での垂直的連携. 第 47 回日本医学教育学会大会. 新潟, 7 月.
- 3) 福島 統. (シンポジウム 9: 日本医学教育学会による卒前教育・卒後研修 8 年間の基本的医学教育コンピテンスの提案) 基本的臨床能力養成期間での Learning Outcomes. 第 47 回日本医学教育学会大会. 新潟, 7 月.
- 4) 福島 統. (シンポジウム 10: 行動科学) 慈恵医大での「行動科学」プログラムー医療に関する自然科

学以外の知識と経験を「行動科学」とすべき？－，第47回日本医学教育学会大会，新潟，7月。

5) 福島 統。(シンポジウム11：初年次教育を考える) 医学部での初年次教育：オープニング・リマークス，第47回日本医学教育学会大会，新潟，7月。

6) 中村真理子，IR (Institutional Research) その役割や必要性－大学の運営に必要な情報の管理，提供－，札幌医科大学FD教育セミナー，札幌，10月。

7) 福島 統。(共同企画5：AI時代に向けて－これからの医師の役割 (Doctor's role in the future)) AI時代に向けて－これからの医師の役割，第35回医療情報学連合大会，宜野湾，11月。

8) Nara N, Fukushima O, Kitamura K, Tanabe M, Yoshioka T. Quality assurance and improvement in medical education by Japan Accreditation Council for Medical Education (JACME). ANZAHPE-OTTA-WA 2016 Joint Conference (ANZAHPE 2016 Conference and 17th Ottawa Conference). Perth, Mar.

V. その他

1) 尾上尚志，内頸動脈海綿静脈洞瘻，岡庭 豊（医療情報科学研究所），荒瀬康司（虎の門病院），三角和雄（千葉印西総合病院）編，イヤート・アトラス，第6版（イヤート2017：内科・外科編，第26版，付録），東京：メディックメディア，2015，pJ-23。

2) 尾上尚志，うっ血乳頭，医療情報科学研究所編，フィジカルアセスメントがみえる，東京：メディックメディア，2015，p.229。